

狂犬病に関するQ&A

Q1 狂犬病は人にも感染しますか？

A1 狂犬病はすべての哺乳類に感染することが知られており、もちろん人も例外ではありません。人も動物も発症するとほぼ100%死亡しますが、人では感染後（咬まれた後）にワクチンを連続して接種することにより発症を防ぐことができます。

Q2 人はどのように感染しますか？

A2 主に狂犬病に感染した動物に咬まれ、唾液中に排出されるウイルスが傷口より体内に侵入することにより感染します。



Q3 狂犬病が発生している国はどこですか？

A3 狂犬病は日本、英国、オーストラリア、ニュージーランドなどの一部の国々を除いて、全世界に分布します。つまり、海外ではほとんどの国で感染する可能性のある病気です。

Q4 どのくらいの人が狂犬病に感染して亡くなっているのですか？

A4 世界保健機構（WHO）の推計によると、世界では年間におおよそ5万5千人の人が亡くなっています。また、このうち3万人以上はアジア地域での死亡者と言われています。

Q5 狂犬病に感染した犬はどのような症状を示しますか？

A5 狂騒型と麻痺型と言われるタイプがあり、狂騒型では、極度に興奮し攻撃的な行動を示します。また、麻痺型では後半身から前半身に麻痺が拡がり、食物や水が飲み込めなくなります。

Q6 狂犬病に感染した人はどのような症状を示しますか？

A6 強い不安感、一時的な錯乱、水を見ると首（頸部）の筋肉がけいれんする（恐水症）、冷たい風でも同様にけいれんする（恐風症）、高熱、麻痺、運動失調、全身けいれんが起きます。その後、呼吸障害等の症状を示し、死亡します。

Q7 日本では狂犬病に関してどのような規制がなされていますか？

A7 「狂犬病予防法」（昭和25年法律第247号）に基づき、狂犬病の侵入予防のために、犬、猫、アライグマ、キツネ及びスカンクの輸出入検疫が、また、万が一国内に狂犬病が侵入した場合に備えて、飼い犬の登録と飼い犬に対する狂犬病の予防注射が義務づけられています。



Q8 犬の登録はなぜ必要なのですか？

A8 狂犬病が発生した場合には、発生地域で飼われている犬に対する一斉検診や臨時の予防注射を実施しなければならない場合があります。そのため、地域にどのくらいの犬が飼われているか、誰が犬を飼っているかを常に把握しておく必要があります。

Q9 犬の狂犬病予防注射はなぜ必要なのですか？

A9 万が一、狂犬病に感染した動物が日本に入ってきた場合でも、狂犬病予防注射により犬の体内に免疫ができていれば狂犬病の感染から犬を守ることができます。そして、多くの犬が免疫を持つことによって犬への感染が広がらず、人への感染も防ぐことができます。